東京都立三鷹中等教育学校　後期課程進路通信「はるつげくさ」

春 告 草

第 94 号　平成 30 年 2 月 14 日　進路指導部発行

センター試験を振り返る（第４回）

立春が過ぎ2月も半ば、私大入試はピークを越えたでしょうか。春を告げる「合格」の知らせは少しずつ届いていますが、今月下旬に行われる国公立大前期日程入試までには、まだしばらくの間があります。6年生の皆さんが実力を十二分に発揮し、進路実現されることを祈りましょう。

さて「センター試験を振り返る」の4回目です。連載も今回で一区切り、一応最終回とします。今後は時期をみて関連の情報を発信していきたいと思います。

総　括

「平成30年度大学入試センター試験実施結果の概要」が大学入試センターより発表された。実受験者数は553，762人で志願者数に対する受験率は95．12%だった。高校卒業見込者が前年より約1万4千人減少する中、現役志願者数は微増して、現役志願率は44．6%と過去最高を更新した。近年、センター試験を課す推薦入試、AO入試を利用する国公立大が増加していて、センター試験を受験する層は拡大している。

一方私立大学では合格者を絞り込む動きがあり、前年の厳しい入試は既卒者等志願者の微増にもつながった。

平均点は地歴A科目などを除く主要20科目中、12科目で前年を上回った。地歴、公民科目は平均点upが目立ち、世界史B、地理B、倫理、倫理・政経は70点前後の高水準である。理科は、前年upの生物がdown、前年downの化学がupするなど、up、downを交互に繰り返す傾向が伺える。新課程の先行実施があり、理科は数学とともに新課程入試4年目であるが、そろそろ安定した出題を期待したいところである。その数学はここ数年、出題レベルも安定し50点から60点付近を推移している。かつては数学Ⅱ数学Bの平均点が39点という時があったが、今後もこのレベルで推移すれば、勉強量に応じた得点が期待できるだろう。数学Ⅱ数学Bではラジアンの定義が出題されたが、教科書をしっかり学習する姿勢を堅持したい。

一方、平均点downの科目では、国語が若干のdownである。前年は「国語ショック」（前年比22．4点のdown）のあった年だったが、前々年レベルまでの回復は見られなかった。英語筆記は前年レベルだが、英語リスニングは－5．4点のdownがあった。50点満点だから、100点満点に換算すれば10点以上の大幅downで、過去最低の点数となった。

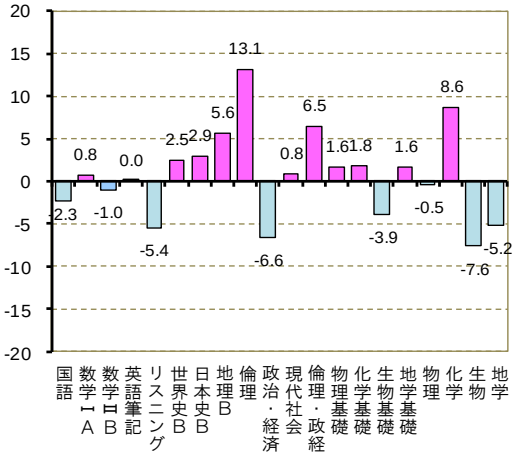
全体的にみれば、手堅く得点した受験生も多く、前年同様「大きな失敗のなかったセンター試験」と評価できるだろう。

表 1．平成30年度センター試験平均点

	科目（配点）	平均点	
		30 年度	29 年度
国　語	国語（200）	104.68	106.96
地理歴史	世界史 B（100）	67.97	65.44
	日本史 B（100）	62.19	59.29
	地理 B（100）	67.99	62.34
公　民	現代社会（100）	58.22	57.41
	倫理（100）	67.78	54.66
	政治・経済（100）	56.39	63.01
	倫理・政経（100）	73.08	66.63
数 学 ①	数学Ⅰ数学 A（100）	61.91	61.12
数 学 ②	数学Ⅱ数学 B（100）	51.07	52.07
理 科 ①	物理基礎（50）	31.32	29.69
	化学基礎（50）	30.42	28.59
	生物基礎（50）	35.62	39.47
	地学基礎（50）	34.13	32.50
理 科 ②	物理（100）	62.42	62.88
	化学（100）	60.57	51.94
	生物（100）	61.36	68.97
	地学（100）	48.58	53.77
外 国 語	英語（100）	123.75	123.73
	リスニング（50）	22.67	28.11

平成30年2月1日大学入試センター発表

図 1．センター試験平均点前年差



出題内容

2021年度入試から新テスト「大学入学共通テスト」が実施される。受験するのは、現中3生であり、新テストに関わらないよう5年生、4年生には最善を尽くしてもらいたいが、新テストで試される学力を測定する出題も見られ、これに対する準備も必要だろう。問題文が長く読解力を要す問題や対話形式での出題、また文章や図表など複数の素材から考えさせる問題は今後も増加すると思われる。

英語筆記では、第2問・対話の流れを読み取る出題の傾向が強まり、第3問・話し合いの発言内容をまとめる問題などでは、より実践的なコミュニケーション能力を問う傾向が強くなっている。

国語の第1問（評論）では、本文に示された2つの図（写真）に関連した生徒の話し合いが紹介され、そのうちの一人の発言が空所補充問題として問われた。

地学基礎の第3問（宇宙）では、会話形式の問題が昨年に引き続き出題された。

日本史Bでも会話形式の出題として、歴史学科を卒業した観光課の新人職員とその先輩の会話文という設定からの出題だった。また複数の時代をまたいで総合的に問う問題として、第1問では古代～近代、第3問では地震とその影響を素材に中世～近世初期までを総合的に問う出題があり、歴史資料をもとに総合的に考察させようとする出題がみられた。

科目選択

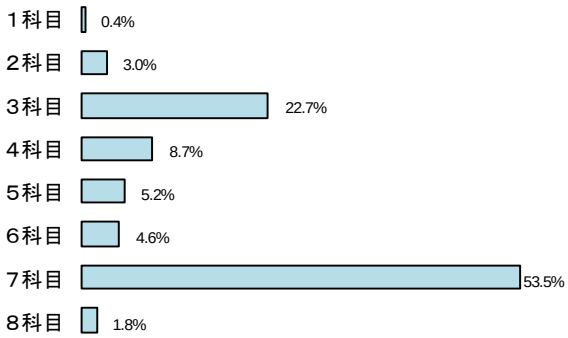
図2にセンター試験の受験科目数別の受験者数の構成比率を示した。

7科目受験者（理科基礎2科目で1科目としてカウント）は296，661人と、全パターンで最も多く、センター試験受験者の53．5％を占める。文系・理系ともに、国公立大が課す最も標準的な科目数だ。

次に多いのは、私立大志望者に多い3科目受験者で全体の22．7％を占め、さらに4科目受験者が8．7％で続く。

国公立大志望者と私立大専願者で、受験科目数がはっきり分かれていることが確認できるだろう。

図２．センター試験受験科目数別受験者数の構成比率



大学入試センターより発表された「実施結果の概要」では、科目別の受験状況についての集計も掲載されている。

地歴、公民および理科の科目選択についてみていきたい。

表2は地歴の集計であるが日本史Bが最多で地歴選択者の4割を占める。地理Bがこれに続き、世界史Bの選択者は2割強程度である。公民の集計は表3であるが、公民受験生の4割弱は現代社会で受験している。

表２．地理歴史の受験人数

世界史B	日本史B	地理B
92,802 [22.3%]	170,762 [41.0%]	147,116 [35.3%]

表３．公民の受験人数

現代社会	倫理	政治・経済	倫理、政治・経済
80,450 [38.7%]	20,436 [9.8%]	57,280 [27.6%]	49,746 [23.9%]

5年生は既に来年度の科目選択を決め、登録も済ませた時期ではあるが、念の為に確認しておこう。勿論4年生は、1年後には決めなければいけないので、この際学習しておこう。

国公立大志望でセンター試験受験を想定し地歴・公民の受験科目を考える際は、**4単位科目**（世界史B、日本史B、地理B、『倫理、政治・経済』）と**2単位科目**（世界史A、日本史A、地理A、現代社会、倫理、政治・経済）の2つに大きく分けてみる必要がある。

国公立大文系を志望する場合、多くの大学・学部は地歴、公民を2科目受験する必要がある。基本パターンは「日本史B」と「現代社会」で受験するなど、4単位科目と2単位科目を合わせた10科目からの2科目の組み合わせである。しかし、東京大、京都大、一橋大など難関大は4単位科目から2科目を選択させるケースが多い。さらに世界史A、日本史A、地理Aが選択できないケースや他教科と合わせて2～3科目を選択させるなど、科目指定にはいろいろなパターンがある。

国公立大理系志望の場合は、一般的に2単位科目を含む10科目から1科目を課すところが多いが、難関大は4単位科目指定のケースもある。

表4には地歴、公民2科目受験者の科目選択内訳を掲載したが、日本史Bを軸とした選択が多くなっている。例年、この構成比に大きな変化はないので参考にするのもよいだろう。ただし、志望大学の科目指定を調べて、間違いのないように科目選択を決めることが何よりも大切である。

表４．地歴、公民２科目受験者の科目選択人数内訳

教科	地理歴史						公民			
科目	世界史A	世界史B	日本史A	日本史B	地理A	地理B	現代社会	倫理	政治経済	倫理、政治経済
世界史A			60 [0.0%]	61 [0.0%]	29 [0.0%]	41 [0.0%]	168 [0.1%]	50 [0.0%]	118 [0.1%]	13 [0.0%]
世界史B			38 [0.0%]	7,148 [4.8%]	36 [0.0%]	7,225 [4.8%]	12,445 [8.3%]	4,670 [3.1%]	7,636 [5.1%]	11,769 [7.8%]
日本史A					26 [0.0%]	20 [0.0%]	537 [0.4%]	85 [0.1%]	326 [0.2%]	33 [0.0%]
日本史B					30 [0.0%]	3,427 [2.3%]	28,037 [18.6%]	7,410 [4.9%]	18,399 [12.2%]	16,951 [11.3%]
地理A							433 [0.3%]	30 [0.0%]	159 [0.1%]	14 [0.0%]
地理B							11,304 [7.5%]	1,055 [0.7%]	4,062 [2.7%]	3,857 [2.6%]
現代社会								171 [0.1%]	2,138 [1.4%]	251 [0.2%]
倫理									178 [0.1%]	
政治経済										

平成30年度センター試験における
地理歴史・公民２科目受験者の科目選択状況
（大学入試センター発表）

■組合せは多い順に
1．日本史Ｂ＋現代社会［18.6%］
2．日本史Ｂ＋政治経済［12.2%］
3．日本史Ｂ＋倫理、政経［11.3%］
4．世界史Ｂ＋現代社会［8.3%］
5．世界史Ｂ＋倫理、政経［7.8%］
[ ]内は２科目受験者に対する受験者の構成割合

次は理科の科目選択についてみていきたい。

現行課程になって**国公立大文系生徒は理科が基礎2科目受験**（※1）となった。旧課程では1科目だったので、2科目受験を負担に思う人もいるかもしれないが、「得点源」と考えた方が良いだろう。理科基礎科目の全国平均点は表1に示した通りだが、本校生徒の平均点は第91号で示したように40点前後である。100点満点に換算すれば物理基礎は87点、生物基礎が86点、化学基礎も73点と好成績をおさめている。理科基礎2科目は負担増にはならない。文系志望の生徒は決して弱気にならずに国公立大を志望しよう。その為にも早いスタートが必要であることは言うまでもない。

（※1．大学によっては基礎科目に替えて「基礎なし科目」選択も可能）

一方、**理系は「発展２科目受験」が標準**。科目は志望学科に応じて指定されているケースが多く、募集要項などで最新情報を収集しよう。ただし、理系の中でも教育系や看護・医療系の場合は「基礎２科目＋発展１科目」など、基礎科目での受験が可能な大学もある。よく調べて受験科目を決定しよう。

受験者の選択内訳を表5、6に示したが、「基礎科目」は化学基礎、生物基礎の組み合わせが「基礎2科目」受験生の過半数を占める。（いずれもデータは大学入試センター発表資料）

国公立大理系生徒は「発展2科目」の選択となるが、物理、化学を選択するパターンが多数を占める。

表５．理科基礎２科目受験者の科目選択内訳

物理基礎	化学基礎	生物基礎	地学基礎
物理基礎	10,759 [7.5%]	2,355 [1.6%]	1,242 [0.9%]
	化学基礎	83,394 [58.2%]	3,528 [2.5%]
		生物基礎	41,926 [29.3%]

[ ]内は科目選択方法Ａの実受験者（143,204 人）の構成率

表６．理科発展２科目受験者の科目選択内訳

物理	化学	生物	地学
物理	138,707 [72.5%]	1,125 [0.6%]	563 [0.3%]
	化学	50,150 [26.2%]	261 [0.1%]
		生物	460 [0.2%]

[ ]内は科目選択方法Ｄの実受験者（191,266 人）の構成率

第76号でもふれたが理科は得点差が開きやすい傾向がある。「実施結果の概要」では現役生と既卒生との比較はしていないので、ベネッセ駿台のデータネットの統計（表7）を引用するが、今年のセンター試験で最も「現浪差」が開いたのは「物理＋生物」、「物理＋地学」の各組合せで35点の差が生じた。この組み合わせは少数であるが、最も組合せパターンが多い「物理＋化学」でも26点の差がある。標準偏差もセンター発表データで理科は20点以上（物理23．68点～生物20．00点）である。力のあるなしで差が付きやすい教科と言えるだろう。

もっとも「浪人」して難関大学を目指す既卒生と比較するのにそもそも無理はあるが、難関大学を目指すのであれば、既卒生に差を開けられないことが何よりも合格へのカギを握ると言えるだろう。

目標をしっかりと見据えて、日々の努力を怠らないようにしよう。

表７．理科平均点の現浪差

科目組合せ	現－浪 平均点
物理基礎＋化学基礎	-14.5
物理基礎＋生物基礎	-11.5
物理基礎＋地学基礎	-5.7
化学基礎＋生物基礎	-11.9
化学基礎＋地学基礎	-7.6
生物基礎＋地学基礎	-10.0
物理＋化学	-26.2
物理＋生物	-35.2
物理＋地学	-35.5
化学＋生物	-28.3
化学＋地学	-23.2
生物＋地学	-28.0

（ベネッセ駿台・データリサーチ）
基礎科目は 100 点満点（50 点＋50 点）での得点差。
発展科目が 200 点満点であることを考慮すれば、
基礎科目の充実は文系生徒の重要課題である。

大学入試ガイド(6)

Road to University

東大をはじめ、いくつかの国公立大学で第一段階選抜の合格発表があった。志願者倍率が規定の倍率を超えた場合に実施するところが多い。センターの得点と個別試験の得点の総合点で合否が決定されるが、第一段階選抜に残らないことには個別試験の受験もかなわない。各大学の実施状況をチェックしておこう。

出願しても試験を受けられない～２段階選抜～

国公立大学の一般入試で気をつけなければならないのが2段階選抜である。

これはセンター試験の成績を用いて2次試験の受験者を事前に選抜したうえで(これを第1段階選抜といいます)、個別試験を実施する制度。選抜が2段階に分かれていることから2段階選抜とよばれている。

2段階選抜実施の有無は大学により、またその実施方法も各大学に委ねられている。多くの大学では「志願者が募集人員の○倍を上回った場合、第1段階選抜を実施する」などとしていて、志願状況によって第1段階選抜(足切り)の有無が決まる。そのため、実際に2段階選抜が実施されるのは、志願者が集まる難関大学や医学科のような人気学科が多くなっている。また、一部の大学では志願者数に関係なく「センター試験の点数が○点以上の者を第1段階選抜の合格者とする」といったように、予め設定した第1段階選抜の合格ラインをクリアした者だけが2次試験を受験できる大学もある。

2段階選抜の実施を予定している大学では、センター試験の成績次第で個別試験を受けることなく不合格となる場合もあるわけだ。

先週、各大学から2段階選抜の実施状況が発表された。

東京大学では科類別に2段階選抜の倍率を定めていて(2.5倍～4.5倍)、すべての科類で実施された。第1段階選抜合格者の最高点・最低点などは表8に示すとおりである。

一橋大学では前期試験の2段階選抜実施倍率を約3倍と規定しているが、表9に示すとおり、各学部ともこの倍率を超えたので2段階選抜が実施された。後期試験は経済学部だけの実施だが、2段階選抜の倍率は約6倍である。後期試験の第1段階選抜合格者の発表は2月27日の予定である。

東京工業大学前期日程試験では、基準点(600点)を設けていて、センター試験の得点が基準点以上であることが、出願要件の一つとなっている(表10)。後期試験は第7類だけの実施だが、2段階選抜実施倍率は約10倍で、先日合格者が発表された。

首都大学東京は足切り者を多く出す大学の一つだが、前期試験の2段階選抜実施倍率は6倍(保健福祉学部のみ5倍)、後期試験は14倍である。第1段階選抜合格者の番号も発表されているが、表11で志願者倍率欄を反転表示したところが規定の倍率を超えた学科である。

国公立大学志望者は、まずセンター試験でしっかりと得点できる力をつけることが大事といえるだろう。

表8. 東京大学第1段階選抜合格者の成績 (900点満点)

科　類	合格者科類別成績		
	最高点	最低点	平均点
文科一類	883	582	756.22
文科二類	878	703	781.30
文科三類	881	738	788.77
理科一類	900	715	802.00
理科二類	883	717	785.31
理科三類	893	630	793.45

表9. 一橋大学前期試験志願状況

	募集人員	志願者数	志願倍率
商 学 部	255	817	3.2
経済学部	195	742	3.8
法 学 部	155	488	3.1
社会学部	220	888	4.0

表10. 東京工業大学前期試験基準点及び後期試験2段階選抜

教科	国語	地歴、公民	数学	理科	外国語	合計
配点	200	100	200	200	250	950

表11. 首都大学東京志願状況

学部・学科等名		一般前期			一般後期		
		募集定員	出願者数	志願倍率	募集定員	出願者数	志願倍率
人文社会	人文社会	80	462	5.8	15	174	11.6
	人文	61	313	5.1	12	94	7.8
法	法	176	1232	7.0			
経済経営	経済経営(一般)	110	437	4.0			
	経済経営(数理)	20	96	4.8			
	経済経営(後期)				20	252	12.6
理	数理科学	25	139	5.6	10	99	9.9
	物理	24	148	6.2	12	113	9.4
	化学	28	152	5.4	10	86	8.6
	生命科学	20	120	6.0	10	78	7.8
都市環境	地理環境	17	79	4.6	5	43	8.6
	都市基盤環境	31	120	3.9	6	90	15.0
	建築	30	294	9.8	8	256	32.0
	環境応用化学	30	114	3.8	8	114	14.3
	観光科学	18	77	4.3	7	82	11.7
	都市政策科学(文系)	20	123	6.2			
	都市政策科学(理系)	10	46	4.6			
	都市政策科学(後期)				5	89	17.8
システムデザイン	情報科学	30	279	9.3	10	166	16.6
	電子情報システム工	51	305	6.0	17	237	13.9
	機械システム工	54	292	5.4	18	210	11.7
	航空宇宙システム工	28	206	7.4	10	146	14.6
	インダストリアルアート	32	190	5.9	8	125	15.6
健康福祉	看護	40	94	2.4	5	93	18.6
	理学療法	20	78	3.9	5	54	10.8
	作業療法	15	37	2.5	5	37	7.4
	放射線	22	75	3.4	8	108	13.5